

2006年度「産業と環境」国際ワークショップ 報告書

環境調和型産業クラスターがもたらす アジアの持続可能な地域開発

日 時：2006年10月26日(木) 13:30~17:00

場 所：国際健康開発(IHD)センター9階「国際会議室」(神戸市中央区)

主 催：(財)地球環境戦略研究機関(IGES)

後 援：環境省、兵庫県、神戸市、アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)、(財)国際エメックスセンター、(財)兵庫県環境クリエイトセンター、兵庫県大気環境保全連絡協議会、地球環境関西フォーラム、関西広域連携協議会、(社)関西経済連合会、兵庫県商工会議所連合会、(財)ひょうご環境創造協会、兵庫県環境保全管理者協会、(財)新産業創造研究機構、大阪商工会議所

2006年度「産業と環境」国際ワークショップ 環境調和型産業クラスターがもたらすアジアの持続可能な地域開発

環境調和型産業クラスターとは、連携・協力関係にある企業が集積することにより、エネルギー・資材・水・情報等の資源を効率的に共有し、環境と経済の両面においてプラスの効果を生み出すこと（またはそのような地域）を意味します。

都市農村境界域に存在する産業クラスターは、環境保全や経済発展に寄与すると考えられていますが、その持続可能性を考える際、環境調和型の産業戦略に対する正しい理解が必要です。また、このような産業クラスターを環境調和型の経済地域に発展させるために必要な政策を、いつ、どのような手法で適用するかもポイントになってきます。

地球環境戦略研究機関（IGES）関西研究センターは、産業と持続可能社会（BSS）プロジェクトの一環として、2006年10月26日、2006年度「産業と環境」国際ワークショップ『環境調和型産業クラスターがもたらすアジアの持続可能な地域開発』を国際健康開発センター（神戸市中央区、HAT 神戸地区）にて開催しました。開会に際し、鈴木胖 IGES 関西研究センター所長より、本ワークショップの目的は、都市農村境界域の産業クラスターに関連する、さまざまな環境マネジメント戦略のプラス面・マイナス面について議論することである旨が述べられました。本研究テーマに取り組んでいる V. アンブモリ主任研究員（IGES 関西研究センター）は、研究概要説明の中で、環境調和型産業クラスターの持続可能潜在性ととも、環境・経済・社会面での多数のつながりの有効活用における、都市農村境界域での環境調和型産業クラスター構築の戦略的重要性について強調しました。続いてアジア4ヶ国を代表して、中島浩一郎氏（真庭バイオエネルギー株式会社）、C. ビスバナサン教授（タイ・アジア工科大学）、N. バンハ氏（ベトナム・ホーチミン市工科大学）、R. ナゲンドラン教授（インド・アンナ大学）が事例発表を行い、こうした環境調和型産業クラスターの構築の条件として、企業間ネットワーク、統合的な政策誘導、技術の活用、ソーシャル・キャピタルの創出の重要性が強調されました。また、郡嶋孝 IGES 関西研究センター産業と持続可能社会プロジェクトプロジェクト

リーダー代行がコーディネーターを務めたパネルディスカッションでは、上記発表者に環境 NPO を代表して渋澤寿一氏（特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会）が加わり、環境調和型産業クラスターが持つ機能（資源・廃棄物の域外流出の抑制、地域資源の有効活用、マイクロファイナンス制度によるイノベーションの促進、国際協力による効率化等）を強化するための複合的投資戦略について討議されました。これらの機能はいずれも地域社会に大きな社会経済的利益をもたらすと考えられています。また環境調和型産業クラスターの構築を促進するための、国レベルでの統合的政策形成の必要性についても議論されました。IGES 関西研究センター産業と持続可能社会プロジェクトで実施中の本研究では、統合的環境・経済計画策定手段の一つとして、都市農村境界域における環境調和型産業クラスターの開発の適切な運営方法、技術、組織、政策を提案することを目的としており、その成果は「ポリシー・ブリーフ」(IGESからの政策提言)、「IGES 環境調和型産業クラスターソースブック」としてまとめられる予定です。



目次

プログラム、プロフィール

◆開会の挨拶

鈴木 胖

(財)地球環境戦略研究機関 (IGES) 関西研究センター 所長 (兵庫県立大学副学長) 1

◆研究概要説明

「都市農村境界域における環境調和型産業クラスターの可能性：経験から戦略へ」 3

ベンカタチャラム・アンブモリ

IGES 関西研究センター 産業と持続可能社会プロジェクト 主任研究員

◆事例発表

日本からの報告

「木質バイオマスが生む持続可能な地域開発

－真庭における環境調和型産業クラスターの取り組み－」 31

中島 浩一郎

真庭バイオエネルギー(株)取締役、銘建工業(株)代表取締役社長 (岡山県真庭市)

タイからの報告

「米加工業を中心とした環境調和型産業クラスターネットワークに関する技術政策分析」 43

チェッティヤッパン・ビスバナサン

アジア工科大学 環境資源開発学部 環境工学・管理学科 教授 (タイ・バンコク市)

ベトナムからの報告

「水産業を中心とした環境調和型産業クラスターの開発へ向けた統合的政策」 65

ニュイン・ディ・バンハ

ホーチミン市工科大学 環境学部 環境管理学科 学科長 (ベトナム・ホーチミン市)

インドからの報告

「養蚕業を中心とした環境調和型産業クラスターの開発における企業間ネットワークの構築」 91

ラマチャンドラ・ムーティ・ナゲンドラン

アンナ大学 環境研究センター 環境科学科 教授 (インド・チェンナイ市)

◆パネルディスカッション 115

[コーディネーター]

郡嶋 孝

IGES 関西研究センター 産業と持続可能社会プロジェクト プロジェクトリーダー代行 (同志社大学教授)

[パネリスト]

渋澤 寿一 特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会 専務理事

中島 浩一郎、C. ビスバナサン、N. バンハ、R. ナゲンドラン、V. アンブモリ

開会の挨拶

財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES)
関西研究センター 所長
鈴木 胖

2006年度「産業と環境」国際ワークショップ開会にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。本日はお忙しい中、当センターの国際ワークショップにご参加いただき、誠にありがとうございます。内外からの著名な研究者、パネリストの方々をお迎えし、また企業、経済団体、大学等から多くのご参加を得て、この国際ワークショップを盛大に開催できますことを誠に光栄に存じております。

当センターは、2001（平成13）年の6月に開設され、5年を経過したところであります。この間、センターの設立テーマである「産業と環境」を基調とした戦略研究を、産業界との連携のもとで実施してきております。

2004（平成16）年から始まりましたIGESの第3期戦略研究プロジェクト「産業と持続可能社会プロジェクト」も本年度で最終年度を迎え、今回のワークショップで取り上げました「環境調和型産業クラスターがもたらすアジアの持続可能な地域開発」は、プロジェクトの中でも、特に鮮明にアジアに焦点を当てた研究テーマです。いかにして持続可能な地域開発を可能とするかは、急速な経済発展が進むアジアにとっての最重要課題であるとともに、まさに私どもIGESの挑むところです。この研究では、都市農村境界域に着目し、そこに存在する産業クラスターを環境調和型にすることを通じて、アジアの持続可能な開発へとつなげていくことを目的としています。私としては、これは日本でも共通するテーマであると考えています。

研究の実施にあたっては、タイのアジア工科大学、インドのアンナ大学、ベトナムのホーチミン市工科大学の3大学にご協力を仰いでおり、今回のワークショップでは、これら3大学の著名な先生方から、貴重な研究報告をいただくことになっています。

また国内からは、岡山県真庭市で事業展開をされている中島様から事例発表をいただくとともに、幅広い知識と活動実績をお持ちのNPOの渋澤様も交えてのディスカッションも行います。

本日まで参加いただきました皆様にもディスカッションにご参加いただき、アジアの持続可能な地域開発へ向けた、実りあるワークショップにしたいと考えております。

以上をもちまして、簡単ですが冒頭の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。